

ALINCO

デジタル簡易無線機（総務省技術基準適合品）

AMBE方式　無線局種別コード：3R/3T（登録局）

DR-DPM80

ユーザーガイド



本書は本製品をお使いになる方向けの簡易ガイドです。登録手続きや機能の設定をされる無線機管理者の方は詳細説明書をお読みください。右の二次元コードからアクセスしてお読みいただけます。本書は運用中、使用者が参照しやすい場所に保管されることをお勧めします。また補足シートや正誤表などが入っている場合は本書とあわせて保管してください。

【重要】

本書の注意書きは使用者が安全にお使いになるためのものです。管理者が遵守すべき内容は一部含まれていません。管理者は必ず詳細説明書の注意書きもお読みください。

ALINCO	株式会社	電子事業部
支店・営業所と電子サービスセンター（SC）		
東京	〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル 14F	TEL.03-3278-5888
名古屋	〒460-0003 名古屋市中区錦2丁目2番24号 いちご丸の内サウスビル 3F	TEL.052-212-0541
大阪 / SC	〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイヤビル 13F	TEL.06-7636-2361
福岡	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目1番34号 エコービル 2F	TEL.092-473-8034

<p align="center">無線・電源機器のアフターサービスに関するお問い合わせは</p> <p align="center">お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007</p> <p align="center">全国どこからでも無料でお客様のご相談窓口につながります。</p> <p>受付時間：月曜～金曜 AM10 - 12 / PM 1 - 5（土日祝日と休業日を除く）</p> <p>Eメール：https://www.alinco.co.jp/>事業案内>電子事業部>お問い合わせ</p>
--

記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。本文中ではTM、®などのマークを省略しています。許可なく複製、複写を禁じます。This product is intended for use only in Japan.

PS1151

FNFH-EE

Copyright Alinco,Inc.

使用上のご注意

（必ずお読みください）

- DCケーブルの接続時は、極性を間違えないように十分注意してください。赤はプラス(+)極、黒はマイナス(-)極です。
- 本機の定格電圧はDC13.8VとDC26.4Vでいわゆる12V車と24V車に対応します。29V以上の電圧が掛かると故障や事故の原因となり、12V以下、15～23V程度の電圧だと電源が入らない、定格通りの出力が出ないなどの不具合の原因となります。
- 本機は調整済みです。ユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。分解されたり、銘板やラベル類を剥がされた製品は修理をお断りすることがあります。また内部の部品は販売しておりません。
- 水などでぬれやすい場所、金属製の粉じんのある場所、油煙や湯気が当たるような場所には設置しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 販売店で事前にプログラミングされている場合、本書に書かれた機能の一部は制限されていることがあります。詳しくは販売店にお問い合わせください。
- 本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり、無線の性質上、通信の秘匿を保証するものではありません。
- 本機はIP54相当の防塵・防湿性能がありますが、リアパネルのゴムキャップを閉じていないと防塵・防汚性能を保証できません。またフロントパネルが本体から外された状態やEMS-97が接続されていない状態では防塵・防沫なりません。DCケーブル部は防塵・防沫ではありません。完全防水構造ではありませんので水没、流水での洗浄などは絶対におやめください。防塵・防沫に使われているゴムキャップなどは経年劣化が生じ、防塵・防湿性が失われることがあります。弊社では防塵・防湿性についても製品と同じ保証期間です。ご了承ください。
- リアパネルに貼られている黒いシールは剥がさないでください。防水性能を維持できなくなります。
- 電源ケーブルはなるべく破損しないようにお使いください。屈曲・ねじり・キズ・熱は故障の原因となります。
- 機種名、数字や記号が書かれたラベル類は、絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、貼り替えたりしないでください。技術適合の基準から外れ、違法無線機とみなされることがあります。
- 車載型無線機を運転手が走行中に運用する際は、安全運転を最大限優先してください。操作パネルを走行中に注視していると道路交通法違反で罰せられる可能性があります。
- 外部の音が聞こえないような状態にして運転しないでください。外部アンプや、大型スピーカーをつないで周りの音が聞こえないような大音量で受信したり、イヤホンやヘッドホンを使ったりすると罰せられることがあります。ほとんどの地方自治体では運転中にイヤホン・ヘッドホン類を使用すること自体を規制していますのでご不明な点は最寄りの警察署などにお尋ねください。
- 本機を自動運転、自動安全装置のある自動車に搭載するときは、送信中にそれらが誤動作しないか安全な場所で確認してからお使いください。

■**電波法上のご注意**

- 本機はデジタル簡易無線登録局です。使用するにはあらかじめ、登録申請や開設届の提出が必要になります。
- 他局の通信を妨害したり、傍受した内容を他に漏らしたり、傍受した内容を盗用することは法律で固く禁じられており、違反すると罰せられます。
- 本機は日本の河川湖沼を含む陸上、領海と接続水域、及び排他的経済水域内でお使いになります。上空での送信及び海外での使用は違法で罰せられます。
- 住所や名前が変わったり、廃局したり、他人への貸し出しをするときも届け出が必要 です。詳しくは管轄の総合通信局にお尋ねください。

- 電化製品の近くで使うと電波障害を与えたり受けたりすることがあります。原因となる機器から離れてお使いください。
- 幼児の手の届くところに置かないでください。
- 直射日光の当たる場所に設置しないでください。発熱・故障の原因となります。プラスチックやゴムなどが多用されるマイクのようなアクセサリは熱や日光で劣化しますので特にご注意ください。
- 電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。チューナー・テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは距離を離して設置してください。
- 廃棄は一般家電と同様です。地域のルールに従ってください。
- 放熱をよくするため、無線機はできるだけ困わないように設置してください。
- 雷に対する保護はなされていません。雷が接近しているときや、発生が予想されるときは屋外につながるアンテナケーブルや電源ケーブルを無線機から外してください。雷は直撃以外にもこれらのケーブルに高い電圧が掛かり故障を起こす原因になります。
- 隣接して駐車した自動車間での通話など極端にアンテナ間の距離が近い場合、高出力で送信するとお互いの無線機に悪影響を及ぼすことがあります。極端に近い距離に通話相手がいるときはお互いにローパワーに切り換えて通話することをお勧めします。
- 車のヒーターの吹き出し口など、温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。
- 電源ケーブル、マイクコードは無理に引っ張ったり引き抜いたりしないでください。故障の原因となります。

■ 保守・点検

- お手入れの際は安全のため必ず本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。
- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。パソコンやデジカメのようなAV機器を清掃するために市販されているクリーニング用具が最適です。
- ベンジン、シンナー、洗剤などの溶剤を使うと外装が変質したり、ショートを誘発して故障の原因となるため絶対に使わないでください。

■ Warning

This product is permitted to use within Japanese territory and territorial-water only. Aviation use is strictly prohibited. A radio operator license is NOT required but a registration to authority is mandatory prior to use. Registration instruction is included. Misuse violates the Radio Law of Japan and shall be subject to fine or punishment.

The AMBE+2™ voice compression software included in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. The user of this software is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the object code, or in any other way convert the object code into a human-readable form. US Patent Nos.: #8,595,002, #8,359,197, #8,200,497, and #6,912,495.

付属品一覧

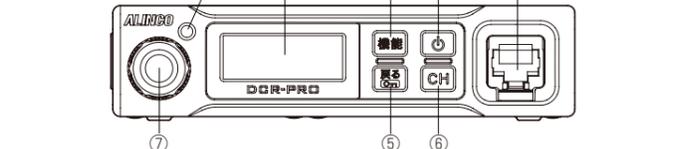
本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

- 本体
- スピーカーマイク EMS-97
- DCケーブル UA0118
- マイクハンガー
- モービルブラケット EBC-72
- タップタイトネジ(M3×8)×2
- ネジ(M5×12)×4
- タッピングネジ(M5×20)×4
- 六角ナット(M5)×4
- スプリングワッシャー×4
- 平ワッシャー×4
- ユーザーガイド(本書)
- 申請書類一式
- 保証書

●**注意** ●保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となります。ご注意ください。
●設置や取付けに使用するネジは、付属または指定のものをお使いください。

各部の名称と機能

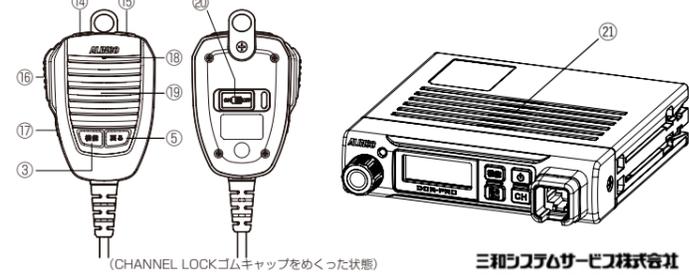
■**フロントパネル**



■**リアパネル**



■**スピーカーマイク(EMS-97)**　■**本体上部**



(CHANNEL LOCKゴムキャップをめくった状態)

三和システムサービス株式会社

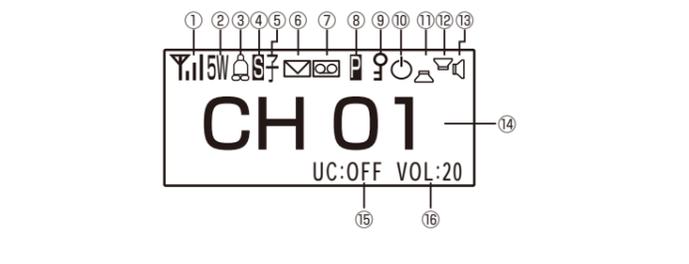
〒310-0054 埼玉県さいたま市東区大宮桜木町4-171 桜木ビル5F

TEL 048-463-2211 FAX 048-463-2217

No.	名称	機能
①	インジケーター	緑点灯：受信中、赤点灯：送信中 <p>水色フラッシュ：短縮動作で音量固定時 <p>白フラッシュ（赤または緑点灯中）：緊急通報送信または受信 <p>青フラッシュ：呼び出しあり（ベル機能動作時）／未読メッセージあり</p></p></p>
②	ディスプレイ	本書中の“ディスプレイ表示”を参照してください。
③	機能キー	押すとセットモードを開きます。長押しに短縮動作を割り当てることができます。詳しくは裏面で説明しています。
④	電源キー	長押しして電源を入／切します。
⑤	戻るキー	セットモード操作時に押します。長押しでキーロックの設定と解除ができます。セットモードでキーロック以外の短縮動作に割り当てることができます。個別通信時は通信相手を切り替えられます。
⑥	CHキー	チャンネルを変えるときに押すと番号が点滅します。ダイヤルを回して番号を選び、もう一度押して確定します。セットモードで長押しに短縮動作を割り当てられます。
⑦	ダイヤル	待受画面では音量、チャンネルを選択します。セットモードでは設定項目や設定値を選択します。
⑧	前面SP / MICコネクタ	付属のスピーカーマイク(EMS-97)を接続します。
⑨	電源ケーブル(赤・黒)	12V車と24V車のバッテリーに直接接続できます。固定局ではDC13.8V/3A級の直流安定化電源に接続します。
⑩	ACCケーブル(青)	外部電源コントロール機能を使用するときに使います。
⑪	背面SP / MICコネクタ(4極)	オプション品のねじ込み式スピーカーマイクを接続します。使用する際には無線機の電源を切り、しっかりと奥までねじ込んでください。取付けが緩いと異常な動作、工具を使って無理にねじ込むと破損の原因になります。
⑫	外部SP端子	市販のΦ3.5mmモノラルミニプラグの外部スピーカー(8Ω推奨)を接続する端子です。接続すると本体スピーカーから音声は出力されません。
⑬	アンテナコネクタ	インピーダンス 50Ωのデジタル簡易無線専用市販アンテナを接続します。自作アンテナの使用は禁じられています。
⑭	DOWN キー	押すとチャンネル番号、設定項目が降順（DOWN）に変化します。セットモードで長押しに短縮動作を割り当てられます。
⑮	UP キー	押すとチャンネル番号、設定項目が昇順（UP）に変化します。セットモードで長押しに短縮動作を割り当てられます。
⑯	PTT キー	押すと送信します。離すと受信に切り替わります。
⑰	サブPTT キー	初期状態では動作しません。セットモードで短縮動作を割り当てられます。
⑱	マイク	口から5cmほど離して、この穴に向かって話します。マイク穴をステッカーやラベルで塞がないでください。

⑱	スピーカー(EMS-97)	スピーカー出力をEMS-97に設定すると音声聞こえます。
⑳	ロックスイッチ	ONで誤操作防止のためUP/DOWNキーをロックできます。
㉑	本体スピーカー	設置時、スピーカーを塞がないように配慮してください。

■ ディスプレイ表示



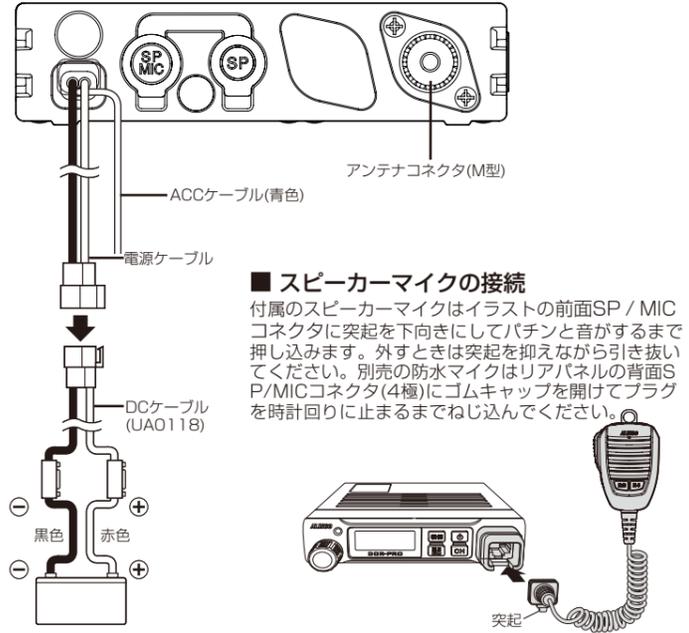
	説明
①	Y 受信した信号の強さに応じて四段階に点灯します。送信時には送信マークになります。
②	5W 送信出力レベルに応じて表示します。
③	ベル 機能設定時に点灯します。
④	S 秘話通信設定時に点灯します。
⑤	子 子機間通話禁止機能で子機設定時に点灯します。
⑥	✉ 未読のショートメッセージがある場合に点灯します。
⑦	📄 未聴の録音データがある場合に点灯します。
⑧	P プライベートチャンネル機能動作時に点灯します。
⑨	🔒 キーロック動作時に点灯します。
⑩	🔌 オートパワーオフ機能設定時に点灯します。
⑪	🗣 前面SP / MICコネクタに接続するスピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑫	🗣 背面SP/MICコネクタ(4極)に接続するスピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑬	🗣 本体スピーカーを有効に設定したときに点灯します。
⑭	CH 01 送信・受信チャンネル番号(周波数)や各設定内容を表示します。
⑮	UC:OFF ユーザーコードや自局 ID、グループを表示します。
⑯	VOL:20 現在の音量を表示します。

●**注意** ●セットモードで初期値と異なる表示方法に変更すると上記のアイコンが表示されないことがあります。（例：Sメーター表示をオン）
●拡声器モードを「拡声器のみ」または「拡声器+送信」に設定しているときは①～⑬のアイコンは黒色で表示します。

電源の接続と設置方法

■ 電源・アンテナの接続

- 電源は車のバッテリー(12/24V)に、直接付属のDCケーブル(UA0118)を接続し本機の電源ケーブルとDCケーブル(UA0118)を接続してください。
- リアパネル右のアンテナコネクタにアンテナの同軸ケーブルを接続します。本機のアンテナコネクタは汎用性が高く、使いやすいインチ・ミリ両用(M/PL)タイプを採用しています。専用のものに比べて嵌め合いに遊びが多く感じられますが、異常ではありません。



■ スピーカーマイクの接続

付属のスピーカーマイクはイラストの前面SP / MICコネクタに突起を下向きにしてパチンと音がするまで押し込みます。外すときは突起を抑えながら引き抜いてください。別売の防水マイクはリアパネルの背面SP / MICコネクタ(4極)にゴムキャップを開けてプラグを時計回りに止まるまでねじ込んでください。



■ フロントパネルについて

本体は、上下どちらを向いても良いようにセットできます。銘板ラベルの貼ってある面なるべく外気が当たるように設置してください。取外し、取付けにはプラスチックが必要で、取外し方は、右図を参照ください。

※銘板ラベルにある二次元コードは、弊社HPにある詳細説明書のリンクです。
※取付けは取外しと逆の手順で行います。

●**注意** 弊社の製品保証には、取付けや取外しに掛かる費用は含まれていません。不具合が起こり、製品を取り外して再度取り付ける際に費用が発生しても、保証の有無に関わらず弊社ではその費用の負担は致しかねます。

■ 外部電源コントロール機能

自動車の「イグニッション」キーと連動して無線機の電源をオン・オフする機能です。詳しくは詳細説明書を参照ください。

操作する前に必ずお読みください

全てのデジタル簡易無線登録局には電波法に基づく下記の制限が設けられています。

■**キャリアセンス**

混信や妨害を防止するため、使用中のチャンネルでは送信をさせない機能です。送信操作してもディスプレイに「CH使用中」と表示されます。受信を示すアンテナアイコンが消えるまで待つか、別の空きチャンネルを探してください。

■ タイムアウトタイマー(送信時間制限)

1回の通信で連続して送信できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。時間を超えると強制的に送信解除され、そのあと1分間は送信できなくなります。Aさんが5分間話し続けるだけでなく、AさんとBさんが間を置かずにはさまば通話しているも1回の通信とみなされます。応答するまでに3秒以上の間を取るとタイマーはリセットされます。初期設定では3分経つと残り時間が表示され、時間制限の30秒前にピピピ、5秒前にピー音で警告します。

■ 通信の互換性について

本機の音声のデジタル化技術(コーデック)はAMBE+2™方式です。他社のデジタル簡易無線登録局ともチャンネルを合わせればユーザーコードと32,767通りの秘話を使って通話できます。RALCWI方式とは通話できません。個別呼び出しや各社独自の技術を用いた機能はメーカーが違うと動作しません。

■ キーの押し方

正しく押さないとう違う動作をします。

- 本書の説明でキーを「押します」とは、押した後すぐに指を離すことを指します。

- 「長く押す」「長押しする」とは機能が動作するまで押し続けることを指します。長押しで思わぬ動作をしたら、もう一度長押しすると元に戻ることがほとんどです。

電源のオンオフ/音量・CH番号の設定

■電源のオンオフ

「電源」キーを長押しすると電源が入ります。電源を切るときも同じ操作をします。

■音量の調整

音量調節範囲は0〜42までの43段階です。ダイヤルを回して適切な音量に調整してください。待受画面右下に表示されます。

■チャンネル番号の設定

待受画面で「CH」キーを押して、CH番号が点滅中にダイヤルを回すか、マイクのUP/DOWNキーを操作してチャンネル番号(以下CH)を選びます。CH15は呼び出し専用です。通話するときは別のCHに移動します。

	
重要	CH26〜30とCH71〜82はデータ通信での使用が推奨されています。音声の通話はお控えください。

通話する

■受信する

信号を受信すると、インジケーターが緑色に点灯し、信号の強さに応じてディスプレイにアンテナアイコンが表示されます。信号の強さやユーザーコードなど条件を満たすと音声が開こえます。個別通信のときは個別IDが表示されます。LED照明、IH調理器具、ソーラー発電装置、DC/ACインバーターなどインバーターやコンバーターを内蔵する装置の近くではノイズの影響を受けて受信しにくくなる場合があります。設置場所に留意してください。

■送信する

マイクの「PTT」キーを押すと、インジケーターが赤色に点灯して送信します。「PT」キーを押したままマイクと口元を5cmほど離して、通常の声量で話します。「PT」キーを離すと待ち受けに戻ります。デジタル無線の性質上、「PTT」キーを押してすぐ話し出すと初めの言葉に「頭切れ」が起こりますので、一呼吸置いてから話すように心掛けてください。付属品のマイク部分を手で覆ったりステッカーを貼ったりすると声を拾いません。

セットモード

本機の機能を使ったり、用途や好みにあわせてカスタマイズするための基本操作です。業務用途ではあらかじめ販売店がプログラムして納品することがあります。本書の説明と異なるときは販売店にご相談ください。めったに変更することがない項目を集めた拡張セットモードもあります。セットモードを設定するときは必ず詳細説明書も参照ください。用途にあってないと思うように通信できなくなります。

■通常のセットモード

- : 待受画面で「機能」キーを押すと「セットモード」と「通信設定」のような項目(メニュー)が表示されます。
- : ダイヤルを回すかマイクのUP/DOWNキーを押して設定したいメニューに合わせ、もう一度「機能」キーを押して次の項目を選択します。
- : 「-ダイヤル-変更」「戻る-」のような選択画面が出るまで「機能」キーを押します。
- : 表示される説明を参考にダイヤルや「機能」キーを操作します。
- : 「戻る」キーを押すと新しい設定を保持して一つ前の画面に戻り、「PTT」キーを押すと確定して待受画面に戻ります。

■拡張セットモード ※本文中で〈拡張〉と記載された機能の操作に必要です。

- : 一度電源を切り、「機能」キーを押しながら電源を入れます。
- : 「拡張設定有効？」と表示されたら「機能」キーを押します。
- : セットモードに入ると「セットモード+」と表示されます。

※拡張セットモードを変更後に上記の操作を繰り返すと、設定を反映したまま通常セットモードの項目だけを表示します。
※リセット操作をすると拡張も含めた全てのセットモードを初期化します。

これ以降は「機能キーを押してセットモードに入り…」のような説明は省略して「セットモードのxxx項目で〇〇して…」のように説明します。

ユーザーコード通信と秘話通信

ユーザーコード通信と32,767通りの秘話通信は、メーカーが異なっても通信できます。

■ユーザーコード(UC)通信

ユーザーコード通信は、同じチャンネルに合わせていても、ユーザーコード(以下UC)が一致している人同士だけでしか通信できない方式です。通話したいグループのメンバー全員に同じUCを設定してください。

- : 「セットモード」画面でダイヤルを回して「通信設定」を選び、「機能」キーを押します。
- : 「ユーザーコード」を選択し、「機能」キーを押します。「オフ」または3桁の数字が表示されます。

- ダイヤルを回して1桁目の数字を選択、「機能」キーを押すごとに桁が移動するので任意の3桁の数字を選択します。
- 「戻る」キーを3回押すか「PTT」キーを押すと待受画面に戻り、設定したUCが表示されます。
- ※ユーザーコード画面で「戻る」キーを長押しするとUCをオフにできます。もう一度「戻る」キーを長押しすると元のUCに戻ります。

■秘話通信

秘話コードの一致した無線機間でのみ交信できる機能です。それ以外は「ギャラギャラ」音になり、通話内容を他人に聞かれません。

- : セットモード「通信設定」の「秘話コード」を選び、「機能」キーを押します。
- : 「オフ」または5桁の数字が表示されます。

- ダイヤルを回して1桁目の数字を選択します。「機能」キーを押すごとに桁が移動するので任意の5桁の数字(32,767通り)を選択します。(左端5桁目は0〜3、その他の桁は0〜9を選択できます。)
- 「戻る」キーを3回押すか「PTT」キーを押すと待受画面に戻り、「オフ」以外の場合は「S」アイコンが表示されます。

※「秘話コード」画面で「戻る」キーを長押しすると秘話コードをオフにできます。もう一度「戻る」キーを長押しすると元の秘話コードに戻ります。

■強化秘話 ※他メーカーと互換性はありません。

前述の秘話コードを強化した、アルインコDCR-PROシリーズ登録局だけが通話できる高度な秘話設定ができます。この強化秘話は標準秘話の32,767通りとは別に15通りの秘話タイプを追加することで、491,505通りの秘話コードとなります。

- : 前項を参照して秘話コードを設定します。続けて選択画面で「戻る」キーを押し、ダイヤルを回して「秘話タイプ」を選び「機能」キーを押します。
- : 「標準秘話」表示でダイヤルを回し「強化秘話」01〜15のいずれかを選び「PT」キーを押して確定させます。

※通話グループ全員に同じ秘話タイプと秘話コードを設定します。UCも兼用できます。

個別通信

※事前の設定が必要です

セットモード「個別設定」の各項目を設定することで、交信相手を個人、グループ、全体と指定して呼び出すことができます。あらかじめ無線機1台ごとに自局IDやグループを設定する必要があります。手動でも操作・設定は可能ですが、無線機の台数が多くなると設定や個体管理が面倒なので、通常はパソコン編集ソフトを使います。ここではあらかじめIDが登録されているときの呼び出し方法だけを説明します。

■呼び出し

- : セットモードで「個別設定」の「個別通話動作」を選び、ダイヤルを回して「オン」に設定します。
- : 「戻る」キーを押して「個別設定」メニューに戻り、「通信相手選択」を選びます。(初期設定は全局)
- : 「個別001」のような選択画面で「機能」キーとダイヤルを操作して通話したい相手の自局IDを設定します。最後に「PTT」キーを押して確定させます。

※選択画面での設定は点滅している表示をダイヤル操作で変更します。点滅する表示は「機能」キーを押すごとに切り替わります。

※ユーザーコード通信と個別通信では通話できません。どちらかの通話方式に統一してお使いください。

※待受画面で「戻る」キーを押すごとに交信相手を個人、グループ、全体に切り替えることができます。

便利な機能(抜粋)

本機に搭載されている便利な機能の代表的なものです。ここに説明がないものは詳細説明書を参照ください。

■キーロック

誤操作でCHや設定が変わってしまうことを防げます。セットモード「短縮動作」の「戻るキー長押し動作」にキーロックが割り当てられているとき、待受画面で「戻る」キーを長押しするとディスプレイに「🔒」が点灯します。キーロック中は「PTT」キー、短縮動作の一部、「緊急通報機能」、電源の入/切、音量設定のみが操作可能です。もう一度「戻る」キーを長押しして「🔒」を消すと解除されます。

■プライベートチャンネル

よく使うチャンネルへのショートカット機能です。セットモード「短縮動作」のいずれかにプライベートCHを割り当てます。次にセットモード「各種動作設定」の「プライベートCH設定」メニューからショートカットしたいチャンネルをダイヤルで選択して待受画面に戻ります。「プライベートCH」を割り当てたキーを長押しすると設定したプライベートチャンネルに移行して「P」アイコンが表示されます。もう一度同じキーを長押しすると元のCHに戻ります。

■受信音量一定化

送信者ごとに異なる声の大きさを同等のレベルに調整します。セットモード「受信設定」の「音量一定化」で設定できます。小声で聞き取りにくいケースが多ければ「小音増幅強」、大声で音が歪みがちなときは「大音抑制」にします。

■受信音質調整

受信音質を調節できます。セットモード「受信設定」の「低音域抑制」「高音域抑制」それぞれで、抑制レベルを調整できます。低音を抑制すると高めの音が、高音を抑制すると低い音が強調されます。

■ノイズキャンセル、ノイズ抑制〈拡張〉、トーン抑制〈拡張〉

送信音に入る音声以外のノイズを低減して、音声の明瞭度を上げます。セットモード「送信設定」の「ノイズキャンセル機能」はマイクで受けた音声と本体スピーカーの隣に内蔵されているノイズ用マイクで受けた環境音を比較して、ノイズを軽減します。また「ノイズ抑制機能」はマイクの音声デジタル処理してノイズを低減します。「トーン抑制機能」はサイレンのような一定周期で鳴る騒音を抑制します。「ノイズキャンセル機能」はレベル調整が可能で、「ノイズ抑制機能」と「トーン抑制機能」はオンオフの切替えのみです。全ての騒音に対応するものではありません。効果を確かめながら設定してください。

■短縮動作

本体やEMS-97のキーを長押ししたときの動作を選択できます。セットモード「短縮動作」で設定できます。「オフ」にするとキーを長押ししても短縮動作しません。キーによって割り当てられる機能が異なります。

■送信出力

セットモード「送信設定」の「送信出力」で5W/2W/1W/受信のみ を切り替えられます。受信のみを選択すると送信が禁止され、受信のみの運用となります。

■マイク感度

セットモード「送信設定」の「マイク感度」で、マイク感度を調整できます。通話相手から「声が小さい」と言われたら+側、「大きい」と言われたら−側の数字を選びます。相手にモニターしてもらいながら、最適値を探します。

三和ソラマササービス株式会社

〒130-0054 埼玉県さいたま市東区安原保林町2-471 福屋ビル5F

TEL 048-650-2211 FAX 048-650-2217

■ UC/秘話/送信出力をCHごとに個別設定〈拡張〉

ユーザーコード、秘話コード、秘話タイプ、送信出力の4項目を、チャンネルごとに個別設定したいときはセットモード「各種動作設定」の「CH通信設定」で「各CHで個別設定」を選択します。初期値は「全CHで共通設定」です。

ビジネスユーザー向けの機能

■拡声器モード

リアパネルの外部SP端子に耐圧4W以上の市販の拡声用スピーカーを接続、「PTT」キーを押しながら話すことで大音量の拡声ができます。「PTT」キーから手を離すと待ち受けに戻ります。ハウリングを防ぐためマイクはスピーカーからなるべく離してください。

手順：セットモード「各種動作設定」の「拡声器モード」から「拡声器のみ」または「拡声器+送信」を選択します。(初期設定はオフ)

※拡声器モードで動作しているとき、音声出力は本体のみに切り替わります。
※音量はダイヤルで変更できます。
※「短縮動作」に「拡声器モード切替」を割り当てると「拡声器のみ」/「拡声器+送信」の切替えがスムーズです。

■デュアルオペレーション〈拡張〉

メイン/サブ2つのチャンネルを交互に受信、送信するときは2つのチャンネルをマイク操作で選ぶことで、どちらも通信できます。

●拡張セットモード「デュアルオペレーション」の「動作設定」を「オン」、「メインCH設定」と「サブCH設定」で任意のCH2つを選択して待受画面に戻ります。

●CH82とCH01の間に表示される専用CHを選択してください。CHが切り替わっているのが画面で確認できたら交互待受を開始しています。

●受信終了後に動作再開する時間は「再開時間設定」、メインとサブの切替え時間は「CH切替間隔」で設定します。終了するときはCHを変更するか「デュアルオペレーション」の「動作設定」を「オフ」にします。

送信：メインCHは「PTT」キーを押して送信、サブCHは「サブPTT」キーを押して送信します。背面SP/MICコネクタ(4極)に接続したマイクでサブCHに送信するときは、「PTT」キーを素早く二度押して送信します。

■子機間通話禁止〈拡張〉

子機に設定すると、親機に設定された無線機としか通話ができず、親機以外の音声は聞こえなくなります。親機同士は通信できます。子機間で勝手な通話をして親局の統制が取れなくなることを防ぐものです。セットモード「通信設定」の拡張メニュー「親機子機切替」で親機か子機を設定します。親機・子機はそれぞれ複数台設定できます。解除するには全ての無線機を親機に設定してください。

ホビーユーザー向けの機能

デジタル簡易無線をホビーやレジャーでお使いのユーザーに人気の機能です。セットモードで操作します。周波数表示やSメーター表示をオンにする一部の機能アイコンが表示されなくなります。表示がおかしいときは初期値に戻してください。() 内が初期値です。

■ セットモード「各種動作設定」

【スピーカー出力(本体)】 音声を出力するスピーカーを選択
設定値：本体/4極/本体+4極/EMS-97/本体+EMS-97/4極+EMS-97/全て

■ セットモード「受信設定」

【上空用CH受信(オフ)】 上空用CH(S1〜S15)を受信する機能〈拡張〉
設定値：オフ/オン

■ セットモード「表示設定」

【カラー(ホワイト)】 ディスプレイのバックライトの色を変更
設定値：ホワイト/レッド/ブルー/グリーン/パープル/イエロー/ライトブルー

【明るさ(1 0)】 ディスプレイの明るさを変更
設定値：オフ/1〜10

【コントラスト(8)】 ディスプレイの濃さを変更 〈拡張〉
設定値：1〜10

【インジケーター(3)】 インジケーターの明るさを変更
設定値：オフ/1〜6

【周波数表示(オフ)】 CH番号の代わりに周波数を表示〈拡張〉
設定値：オフ/オン

【Sメーター表示(オフ)】 Sメーターを表示〈拡張〉
設定値：オフ/オン

【受信レベル表示(標準)】 アンテナマークとSメーターが反応する信号の種類を設定
「標準」はデジタル簡易無線の信号のみ、「拡張」はノイズを含めた全ての信号〈拡張〉
設定値：標準/拡張

多数導入時の初期設定

■ エアクローン(DR-DPMB0同士でないとクローンできません)

設定が済んだDR-DPMB0(マスター機)の設定データを無線で、複数の個体(子機)に一度にクローンできます。子機はどんな設定でもマスター機の設定にクローンされます。

- : 設定を済ませたマスター機と、子機全てで本体の「機能」【CH】キーを同時に押し続けたまま電源を入れ、機種名が表示されたら指を離します。画面に「エアクローン」と表示されます。
- : ダイヤルでマスター機、子機とも同じCHの番号に合わせたらマスター機の「CH」キーを長押しします。送信が始まり、マスター機は「データ送信中」、子機は「データ受信中」と、進行状態が表示されます。
- : 終了するとマスター機は「データ送信完了」、子機は「データ受信完了」を表示してピーブ音が2回鳴動します。電源を入れなおして動作を確認します。

※クローン機にアンテナを接続すると混信を受けて、エラーになる可能性が高くなります。同じ机の上と並べてその前から送信する程度の距離であれば、クローン側はアンテナを外していてもエアクローンできます。

■ PCソフト(無料・PCケーブルERW-7が必要です)

「DCR 2G Clone Utility アルインコ ダウンロード」で検索して弊社HPから編集ソフトと説明書をダウンロードしてください。CHや機能の設定値をPCで編集できます。製造番号や個別名称をつけてデータを保存すれば個別呼び出しのIDなどの個体管理が簡単にできます。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源を入れてもディスプレイに何も表示されない	電源ケーブルの不良 <p>電源の逆接続</p>	接続、ケーブル、ヒューズを点検する <p>電源ケーブルの赤色側を(+)に黒色側を(-)に接続する</p>
	ヒューズ切断	ヒューズが切れた原因を除いたあと、指定容量のヒューズと交換する
ディスプレイの表示が異常になっている	CPUの誤作動	リセットする。電源ケーブルを一旦抜いて再度接続する
スピーカーから音が出ない/受信できない/「ギャラギャラ」音が聞こえる	音量が低すぎる <p>音量設定値が不適切</p> <p>送信状態になっている</p>	適切な音量にレベルを変える <p>「PTT」キーを操作して受信にする</p>
	各種動作設定のスピーカ−出力設定が不適切	設定の見直しを行う
	秘話コードが一致していない	秘話コードを一致させる、もしくは送信側と受信側の秘話コードをOFFにする
送信できない/受信しても応答がない	「PTT」キーが確実に押されていない <p>チャンネルや通信設定が間違っている</p> <p>キャリアセンスが働いている</p>	「PTT」キーを押して、インジケーターを赤く点灯させる <p>相手局と通信可能なチャンネル、設定に合わせる</p> <p>他の電波がなくなるのを待ってから送信する</p>
	送信設定の送信出力が「受信のみ」になっている	送信出力を「1W」,「2W」,「5W」にする
受信性能が悪くなった	アンテナが入っている	アンテナをオフにする
チャンネルが切り替わらない	プライベートチャンネルになっている	短縮動作のプライベートチャンネル機能を使い、元のチャンネルに戻す
キーによる操作ができない	キーロックが設定されている	「戻る」キーを長押しし、キーロックの設定を解除する

※保証やサービスセンターのご利用については、詳細説明書を参照ください。

リセット

電源を切り、本体の「機能」キーと「戻る」キーと一緒に押しながら電源を入れます。「RESET」が表示されたら「機能」キーを押します。拡張セットモードを含む全ての設定が初期化されます。

オプション(抜粋)

□EMS-100 ロングケーブルルスピーカーマイク(ねじ込み式・5mストレートケーブル)
□EDS-48 5mセパレートキット(ブラケット・ネジ・5mケーブル)

※本書に記載されているオプションは一部です。他のオプションについては詳細説明書を参照ください。

定格

■一般仕様

送受信周波数[MHz]	351.200000 ～ 351.631250(CH1～CH70) <p>351.031250 ～ 351.100000(CH71～CH82)</p>
受信専用周波数[MHz]	351.106250 ～ 351.193750 <p>(上空用チャンネルS6 ～ S15、S1 ～ S5)</p>
電波型式	F1D F1E
アンテナインピーダンス	50 Ω
定格電圧	13.8V ± 10%または、26.4V ± 10%
消費電流 <p>(電源:13.8V運用時)</p> <p>(アンテナ:50Ω終端接続時)</p>	1.7A以下(5W送信時)/1.1A以下(2W送信時)/0.9A以下(1W送信時)/800mA以下(受信時)/500mA以下(待受時)/15mA以下(電源OFF時)/5mA以下(ACCケーブルにて電源OFF時)
外形寸法 W×H×D	125.0×30.0×120.0mm (本体突起物除く)
質量 (EMS-97装着時)	約 770g
使用温度範囲	− 20℃～+ 60℃

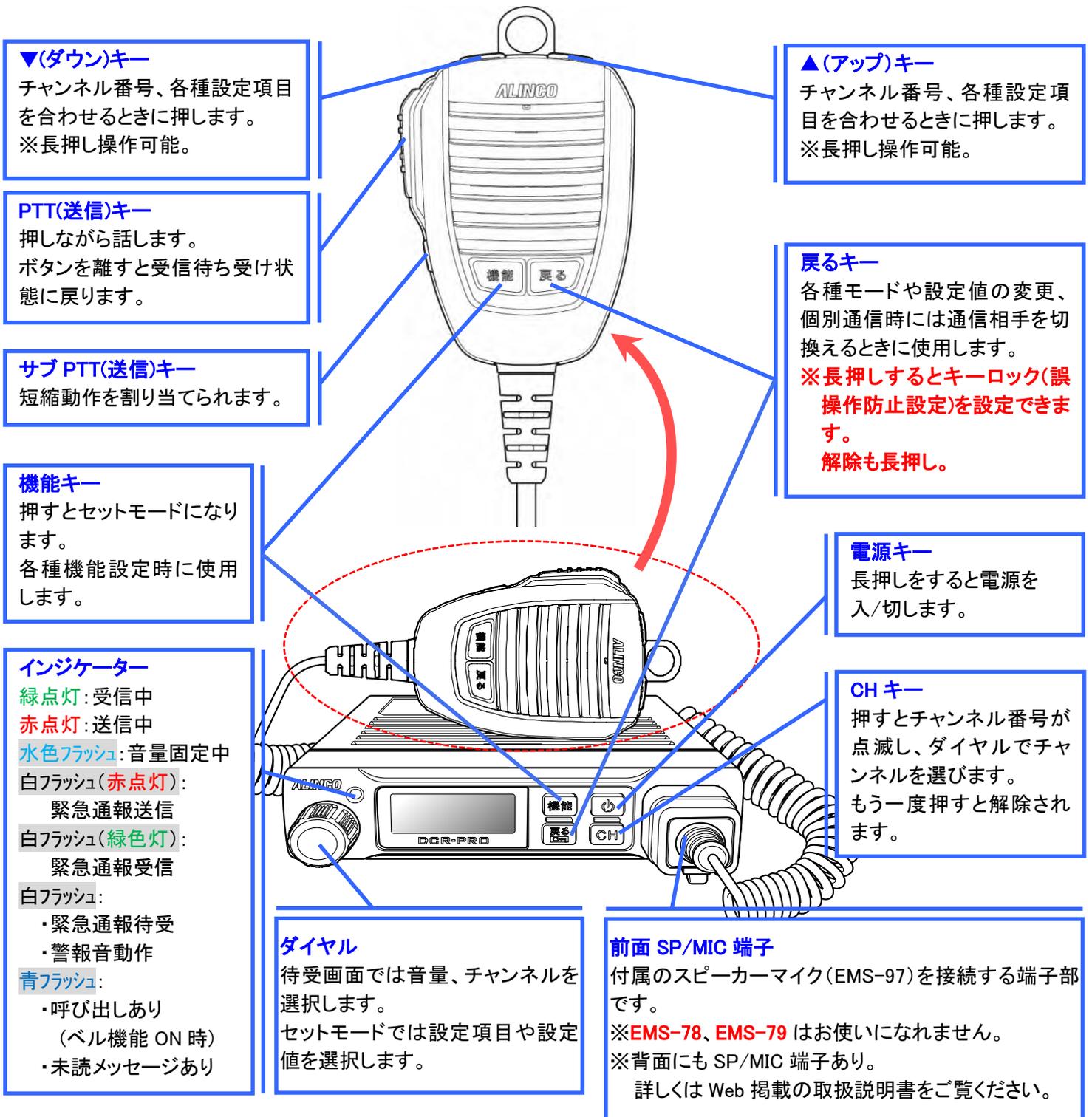
■送信部

送信出力	5W/2W/1W (偏差: + 20%、− 50%)
変調方式	4 値 FSK
周波数偏差	± 1.0ppm
占有周波数帯域幅	5.8kHz以下
最大周波数偏移	± 1324Hz以内
スプリアス発射強度	2.5uW以下

■受信部

受信感度	− 3dBuVemf 以下 (BER1 × 10 ^{−6})
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
低周波出力 (最大時)	3W 以上 (本体 / 外部スピーカ−) <p>800mW 以上 (EMS-97/EMS-100)</p>

- 仕様、定格は予告なく変更することがあります。
- 本書の説明用イラストは実物と実態や形状が異なったり、一部の商品を表示している場合があります。
- 本書の内容を無断転載することは禁止されています。
- 乱丁、落丁はお取り替えいたします。



設定状態がわからなくなったときは・・・
リセット(初期化)をする。

- ① 電源キーを長押しして電源を切ります。
- ② **本体側**の『機能』キーと『戻る』キーを押しながら電源を入れます。
※スピーカマイク側の『機能』キーと『戻る』キーではリセットできません。
- ③ ディスプレイに『RESET』と表示されてから、『機能』キーを押すと、工場出荷状態になります。